

特別展

根岸友山・武香の軌跡



大里村教育委員会

開催にあたって

このたび、幕末から明治の激動の時代を生きた特別展「根岸友山・武香の軌跡」をここに開催する運びとなりました。

おりしも大里村は今年4月、町制施行を控えており、村から町へと新たな歴史を刻もうとする今、二人の偉業を理解していただく機会として本特別展が開催されますことは誠に意義深いものと思われまます。

この特別展では、初公開の根岸友山・武香父子の資料も数多く出品されており、これらの資料から友山・武香父子の生きた時代や社会、そして二人の熱き思いを垣間見ていただければ幸いと存じます。

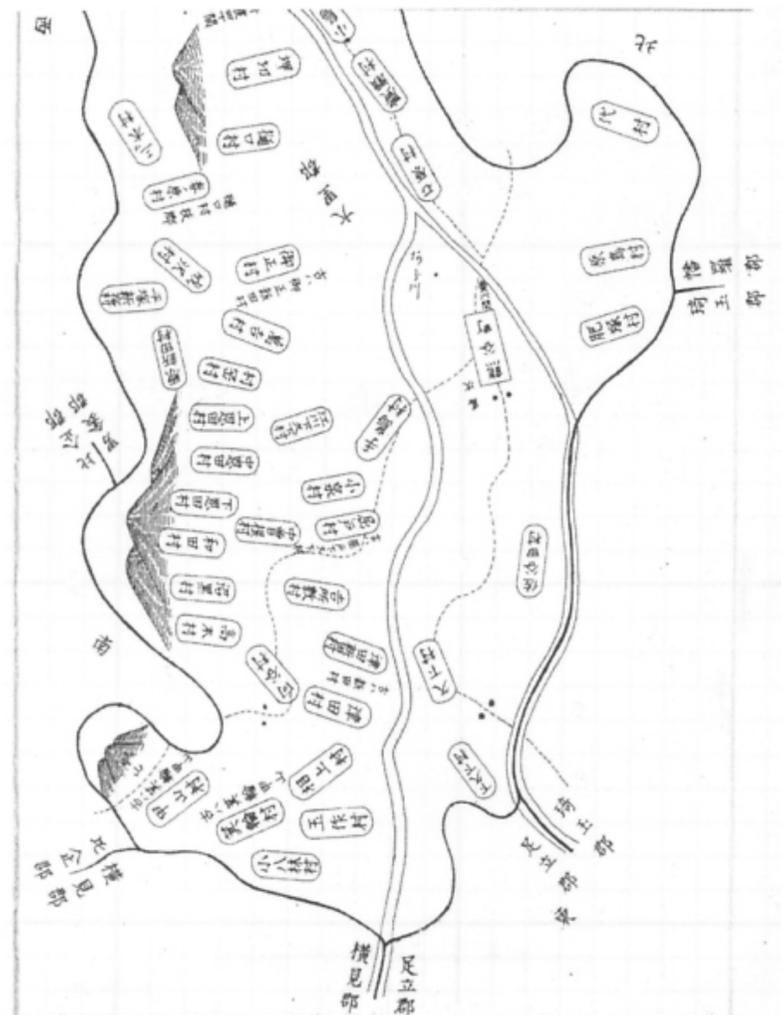
開催にあたり、貴重な数々の資料をご出展いただきました根岸喜夫氏はじめ、ご尽力を賜りました関係各位に対し、心から厚くお礼申し上げ、ご挨拶とします。

平成14年2月1日

大里村長 吉原文雄

凡 例

- 1 本書は平成14年2月1日から3月10日まで開催される特別展「根岸友山・武香の軌跡」の展示パンフレットである。
- 2 図録及びパンフレット掲載写真のうち、次の機関から写真の提供をして頂いた。
埼玉県立文書館、日野市ふるさと博物館、大田区立郷土博物館、妻沼聖天山歓喜院
- 3 写真見出し説明のうち、埼玉県立文書館寄託文書は県寄託と表記させて頂いた。
- 4 この展示会を開催するにあたり、多くの方々からご指導ご協力を賜った。巻末にお芳名を記した。
- 5 本展示会の企画及び図録等の際し、協力員として白井哲也氏、新井浩文氏、角田広高氏の指導のもと実施した。併せて、図録・パンフレット・展示説明文の執筆をお願いした。分担は新井がⅠ、Ⅲ、白井がⅡ-1、Ⅴ-3、角田がⅡ-2、Ⅴ-2、それ以外の執筆編集を出縄康行が担当した。

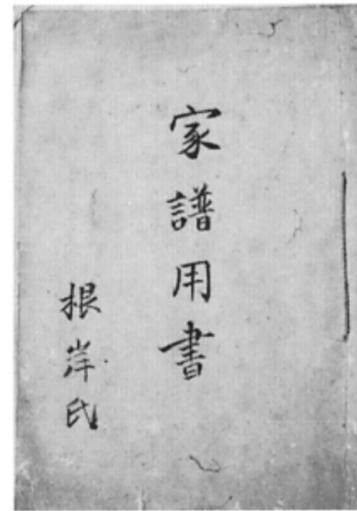


大里郡地図（新編武蔵風土記稿大里郡巻3より）

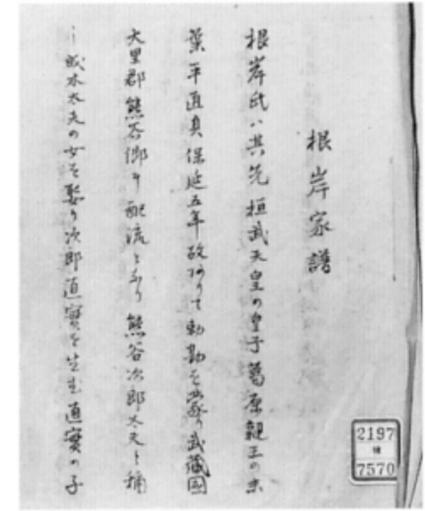
I 根岸家の歴史

根岸家は、同家に残る「家譜」や「系図」によれば、中世に活躍した武蔵武士熊谷次郎直実の末裔といわれています。戦国時代には、はじめ小田原北条氏に仕え、後に松山城主上田氏の家臣として、甲山付近を領有したと伝えます。

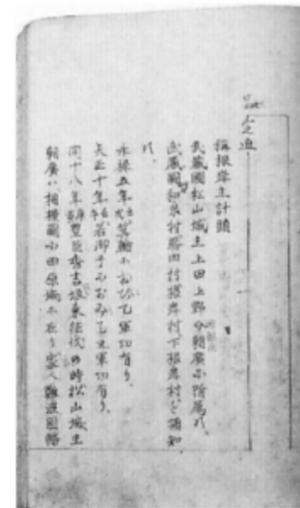
根岸家は、享保元年（1716）に甲山村の名主に就任して以来、村内の治世に努めると共に、宝暦4年（1754）以降には、箕輪村の名主も兼帯して、豪農としての地位を確立しました。また、安永8年（1779）には、隣村の玉作河岸の権利を譲り受け、荒川を通じた舟運業も積極的に行っていました。



家譜用語 根岸喜夫家蔵



根岸家譜 林 信行家蔵・県寄託



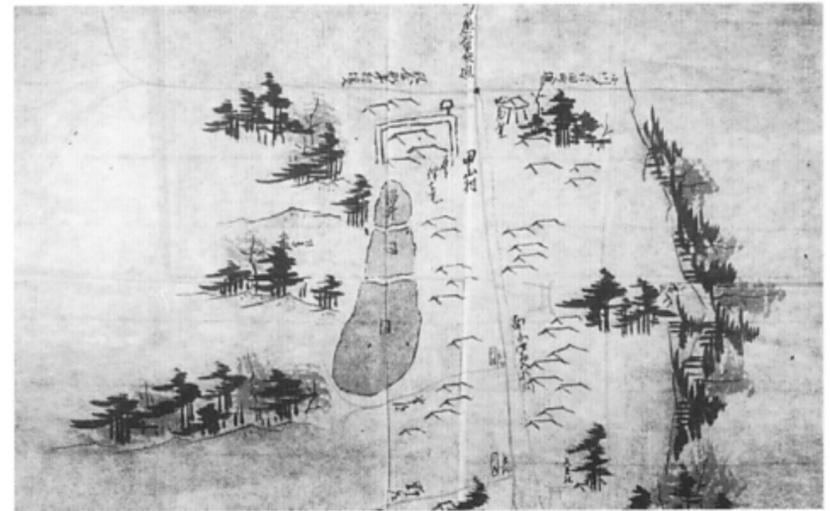
根岸家系図 根岸喜夫家蔵



根岸系図 根岸喜夫家蔵



根岸家長屋門

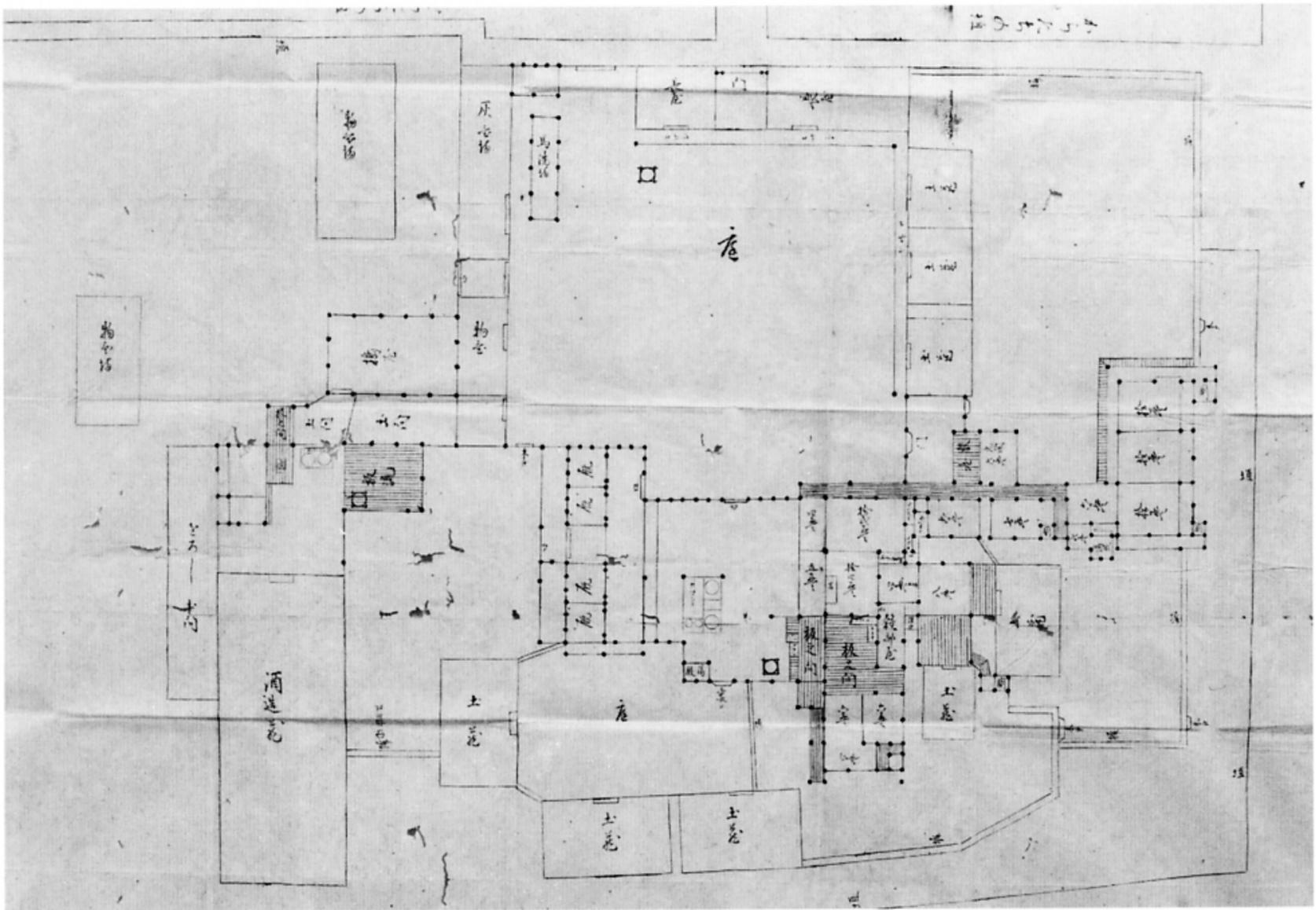


甲山村溜井絵図

根岸喜夫家蔵・県寄託

根岸家系図（近世以降）

……熊谷直実…直栄（根岸家初代）……直武（称帯刀・寛永4年卒）—信富（称喜兵衛・延宝4年卒）—宗信（称弥次兵衛・延宝3年）—武富（称喜太夫・享保17年卒）—有富（称伴七・延享4年卒）—保長（称喜太夫・安永9年卒）—宜信（称伴七・寛政12年卒）—富長（称伴七・寛政7年卒）—信保（称栄次郎・天保3年卒）—信武（称伴七・安政4年卒）—信輔（号友山・称伴七・幼名房吉・文化6年〈1809〉生～明治23年〈1890〉卒）—武香（称伴七・幼名新吉・天保10年〈1839〉生～明治35年〈1902〉卒）—盾臣（称伴七・昭和15年卒）—憲助（昭和5年卒）—信輔（昭和20年卒）—喜夫（現当主）

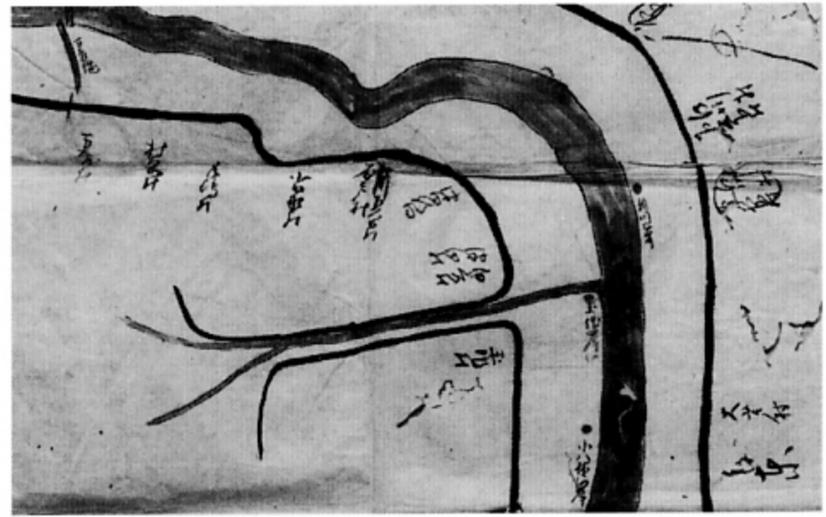


甲山村根岸氏構内之図 天保11年 (1840)

根岸喜夫家蔵・県寄託



乍恐以書付奉願上候 宝暦4年 (1754) 根岸喜夫家蔵・県寄託



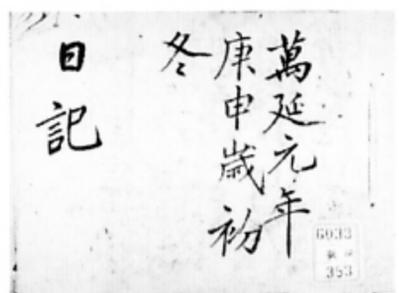
荒川通堰場河岸概念図 (大里郡周辺) 根岸喜夫家蔵・県寄託



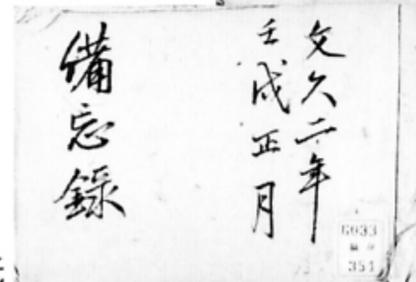
舟賃定之事

根岸喜夫家蔵・県寄託

日記 万延元年 (1860)
根岸喜夫家蔵・県寄託



備忘録 文久2年 (1862)
根岸喜夫家蔵・県寄託



II 友山と村人

II-1 名主としての友山

根岸家は江戸時代の中期以降、甲山村や箕輪村の名主を代々勤めました。根岸家は、年貢の保管場所がなかった甲山村に敷地を提供して郷蔵を建て、飢饉に備え村人から米を集めて蓄えました。また延享4年(1747)には、鐘のない甲山村のために地蔵堂へ鐘を寄進したりもしました。

江戸時代後期には荒川の氾濫で大里郡の大囲堤(輪中堤防)がたびたび決壊し、堤の修復費用をめぐり村々が対立しました。天保10年(1839)堤の修復に反対の村を訴えるため9ヵ村の数百人が蓑笠をまとって甲山村地蔵堂へ集合し、川越藩へ強訴を試みました。これが「蓑負騒動」です。このとき友山は強訴勢を弁護したため、幕府から江戸追放の処罰を受けました。この事件は、後に友山が倒幕を意識し、長州藩へ接近するきっかけになったと言われています。



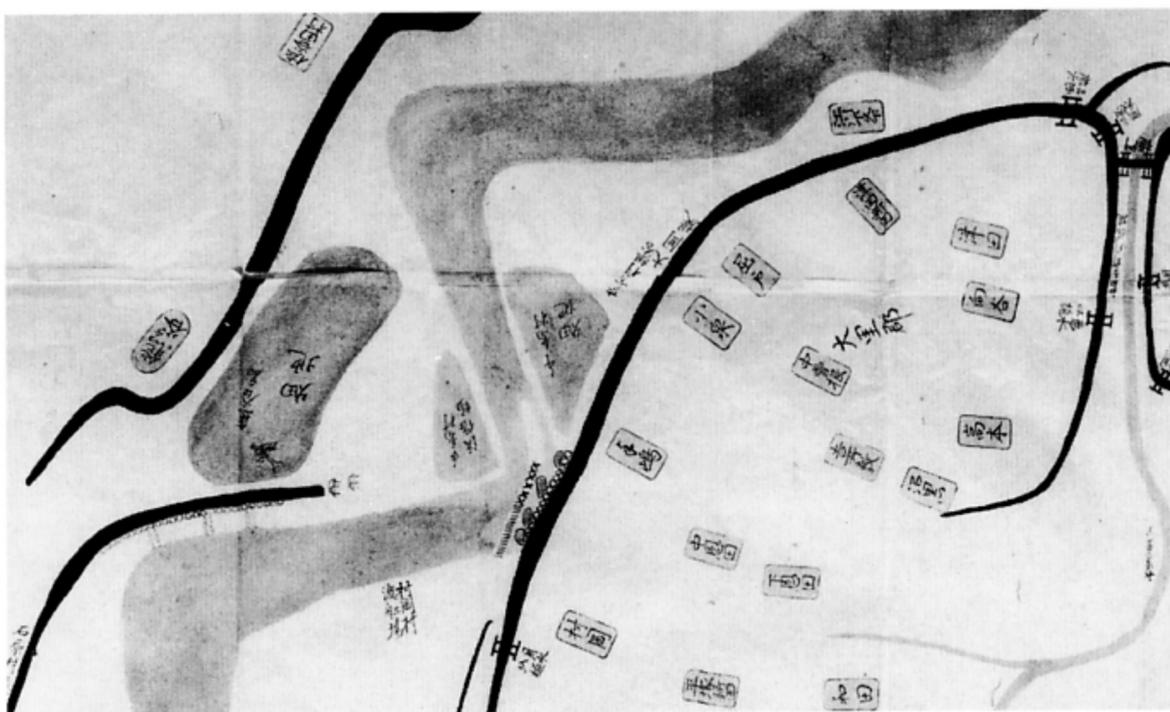
根岸友山肖像

根岸喜夫家蔵



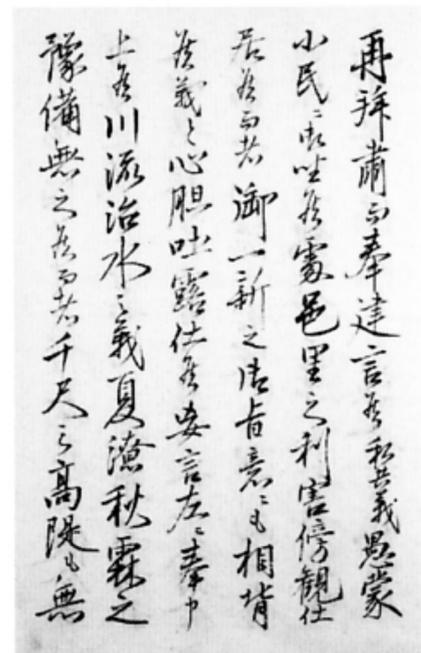
小泉村一件御裁許写 天保12年(1841)

根岸喜夫家蔵・県寄託



荒川通大里横見郡村々堰絵図(百間出し周辺)

根岸喜夫家蔵・県寄託



治水表草稿 明治2年(1869)

林 信行家蔵・県寄託

II-2 三餘堂と振武所

三餘（余）堂は友山が自邸内に設立した私塾です。「三余」とは「年の余り、月の余り、日の余り」のことで、農事のわずかな余暇をも学問に用いる意味から命名したものとされています。塾は農閑を利用した寺子屋と、来遊する学者による学塾の性格を兼ねていました。三餘堂で講義を行った学者には、友山と交流の深かった漢学者の寺門静軒（1796～1868）や、武州一揆について記した『胃山防戦記』の著者である国学者の安藤野雁（1799～1876）等がいます。また、友山・武香父子は振武所という道場も自邸内に開設し、近郷の子弟に剣術を教えました。二人とも北辰一刀流の千葉周作（1794～1855）の門人であったことから、千葉道場から師範が派遣されたり、剣道具の提供を受けたりすることもありました。

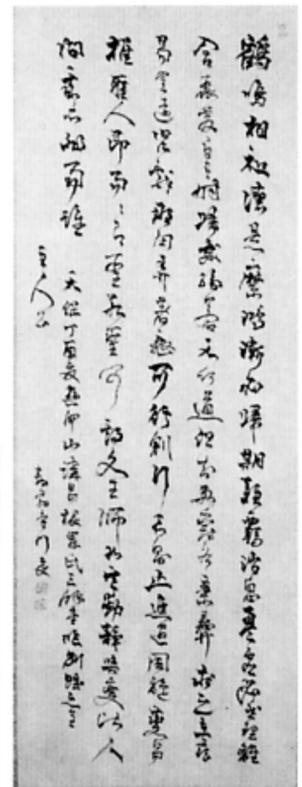


三余堂香炉 根岸喜夫家蔵

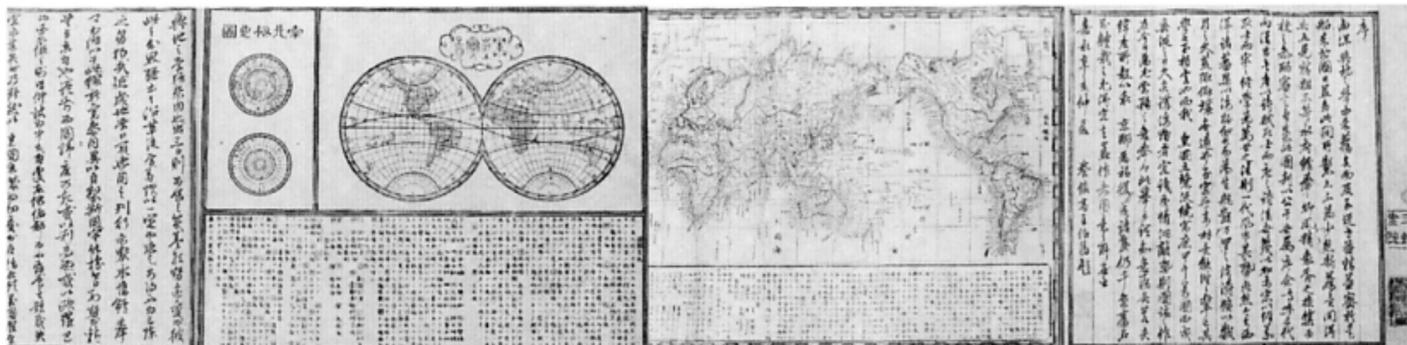


錢少席書

根岸喜夫家蔵

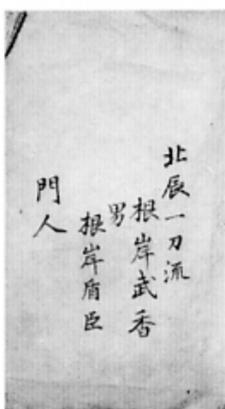


寺門静軒書 根岸喜夫家蔵

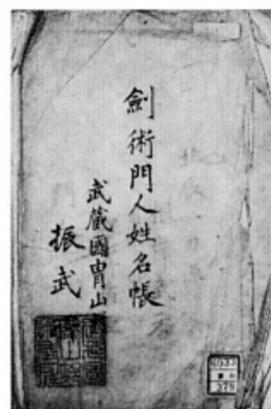


世界地図 嘉永6年（1853）

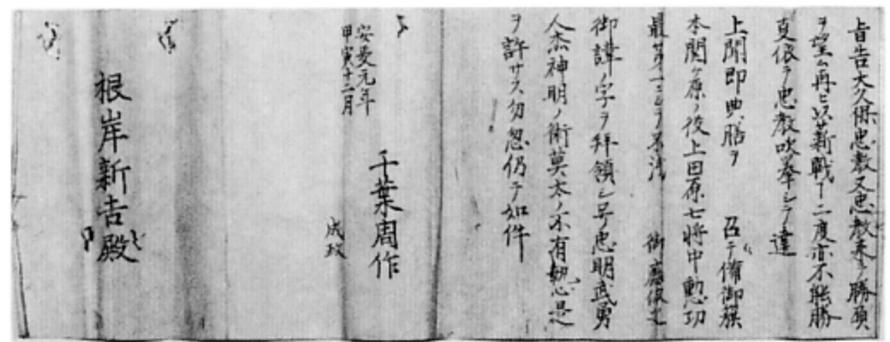
根岸喜夫家蔵



剣術門人姓名帳

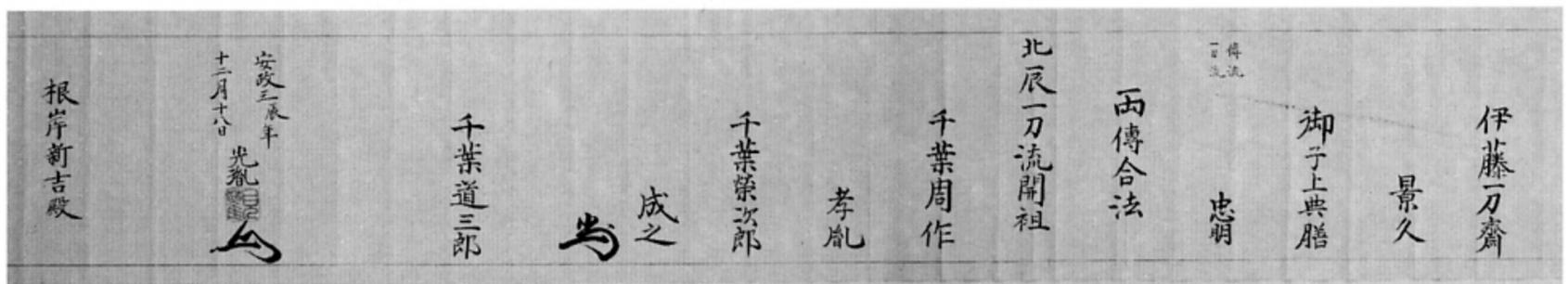


根岸喜夫家蔵・県寄託



千葉周作書状 安政元年（1854）

根岸喜夫家蔵



北辰一刀流免許状 安政3年（1856）

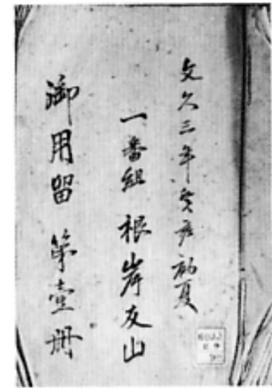
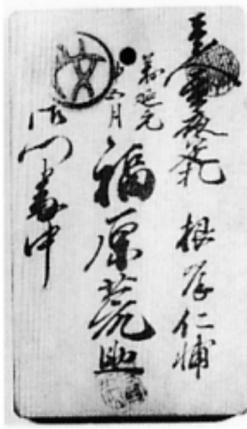
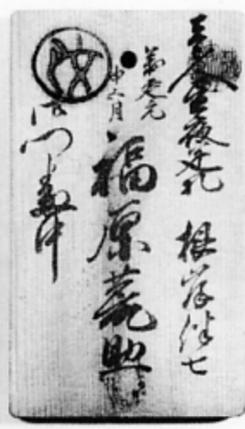
根岸喜夫家蔵

III 草莽の志士友山

根岸友山は、豪農としての資産とその多彩な人脈から尊皇攘夷派の志士との交流が盛んでした。

文久3年(1863)2月、友山は尊皇攘夷派の清河八郎らの呼びかけに応じて浪士組に参加し、門人を率いて一番組小頭として上洛します。しかし、上洛後、清河や友山は尊皇攘夷の建白書を学習院に提出し、事の顛末を知った幕府は、浪士組を江

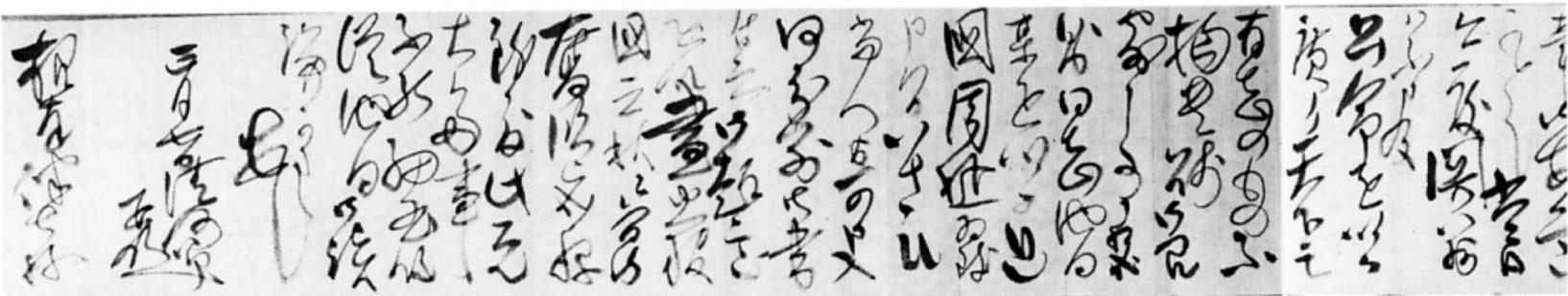
戸の警備を目的として東下させ、後に新徴組を^{しんちようぐみ}発足させます。しかし、これに不満を持った近藤勇^{こんどういさみ}ら一部の浪士は京都に残り、市中警備を目的とする新選組^{しんせんぐみ}となりました。友山は、一時近藤勇らと行動を共にしますが、後に彼らと思想的に対立して帰郷し、新徴組に参加しました。



長州藩御用鑑札 (箱・伴七用・仁輔用・札裏) 万延元年 (1860)

根岸喜夫家蔵

御用留 文久3年 (1863)
根岸喜夫家蔵・県寄託

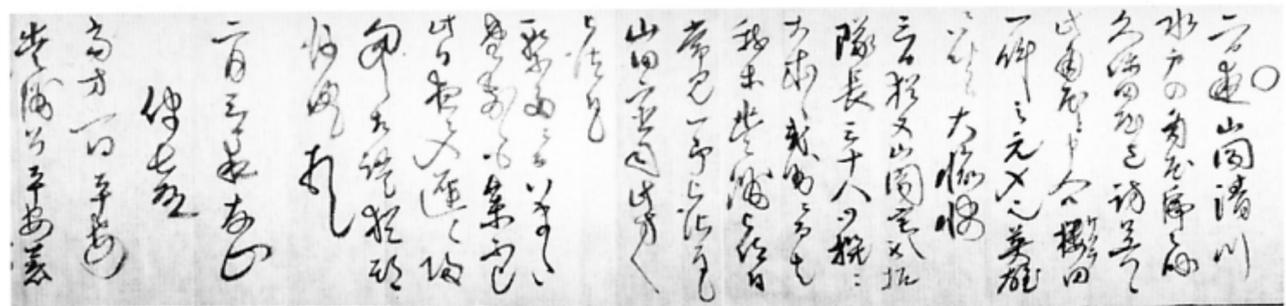


清河八郎書状 (浪士中の有志幕府御召出二付) 文久3年 (1863)

根岸喜夫家蔵・県寄託

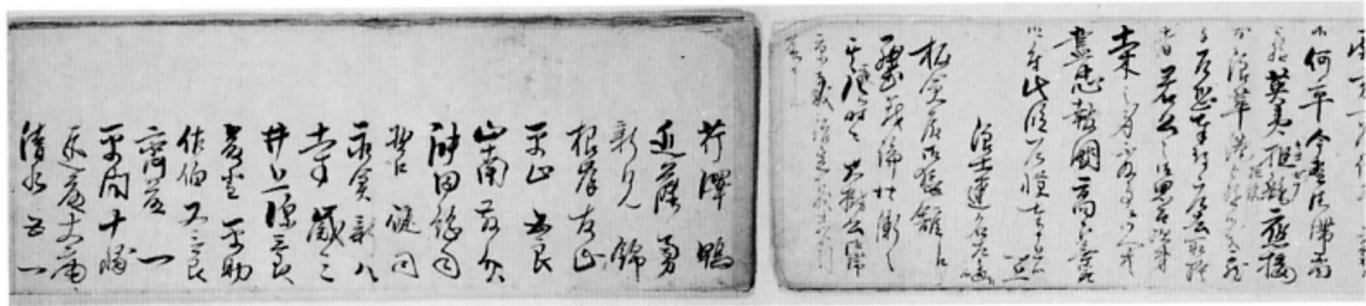


志大略相認書 文久3年 (1863)



根岸友山書状 (浪士組動向二付) 文久3年 (1863)

根岸喜夫家蔵・県寄託



有山 董家蔵

IV 武香と政治

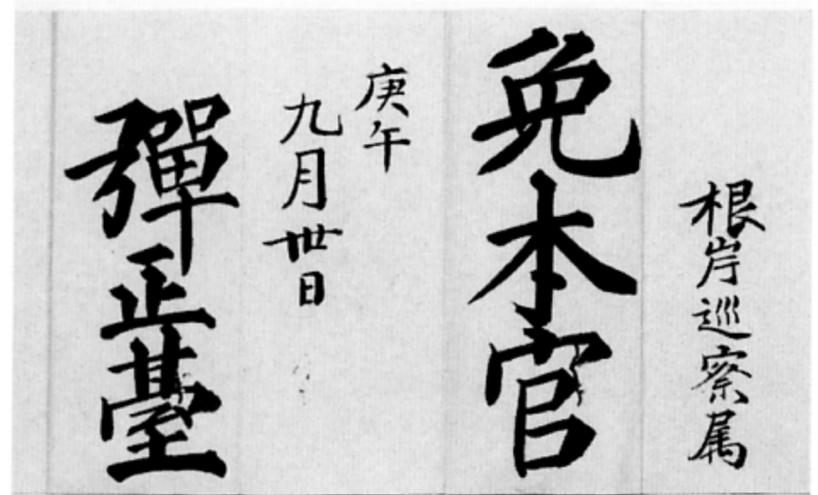
友山の次男である武香（1839～1902）は、明治元年（1868）大惣代名主役、同3年新政府の弾正台巡察属に任ぜられて地方行政に関わりました。以後、同4年浦和県第十四区戸長、同5年入間県第七大区五小区戸長、同6年熊谷県南七大区五小区副区長等を歴任、また、同年には熊谷県学区取締となって初期学制の確立に尽力しました。

明治12年に埼玉県会が開設されると、武香は大里郡から県会議員に選出され、初代副議長、次いで翌年には第2代議長に選ばれました。同23年再度議長となり、同27年には貴族院多額納税者議員に選出されています。政治的には大隈重信を中心とする改進黨系に属し、対外硬運動や地租増徴反対運動に関わりました。



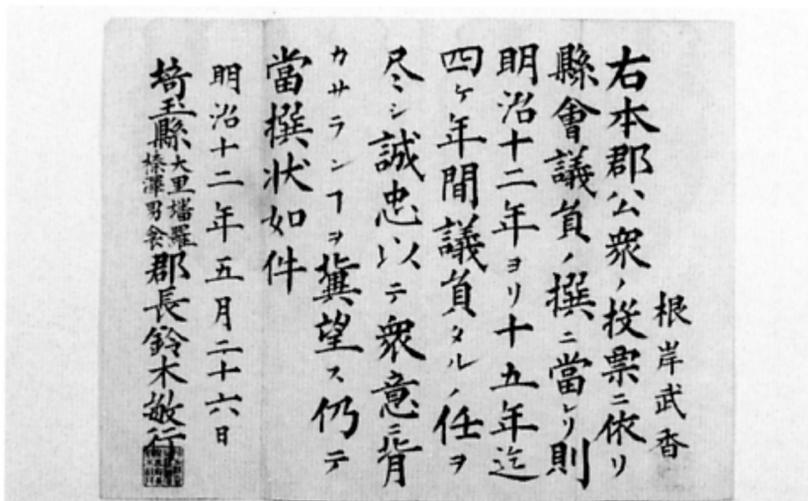
根岸武香肖像

根岸喜夫家蔵



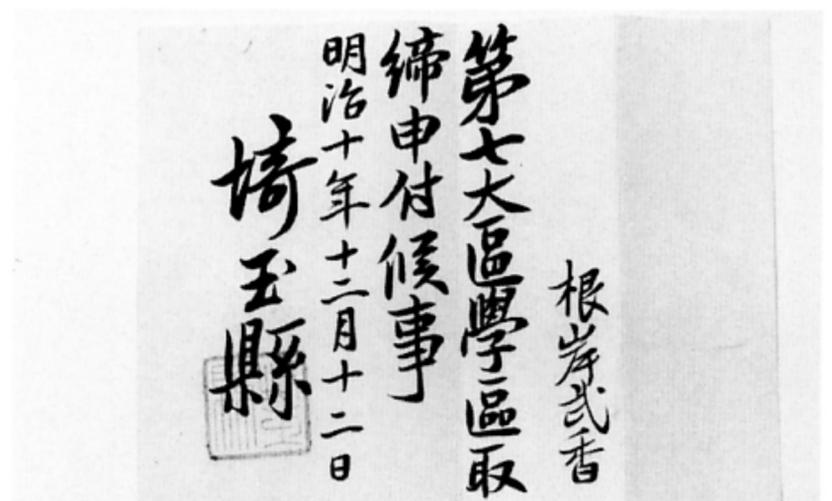
巡察属免職辞令 明治3年（1870）

根岸喜夫家蔵



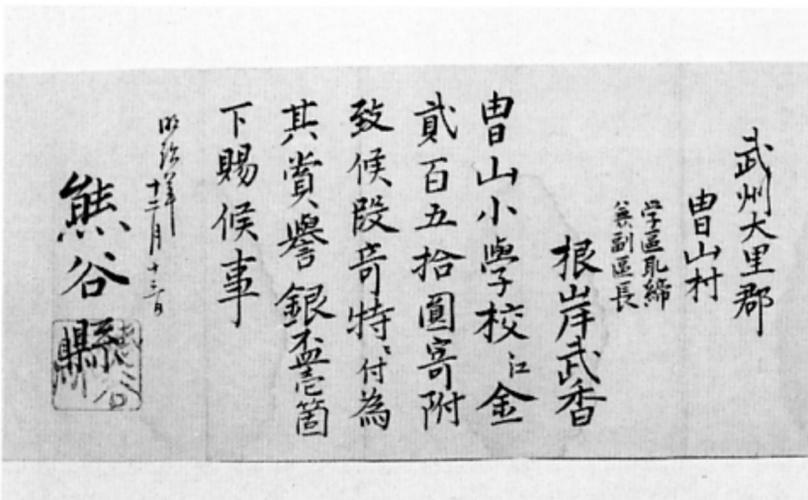
県会議員当選状 明治12年（1879）

根岸喜夫家蔵



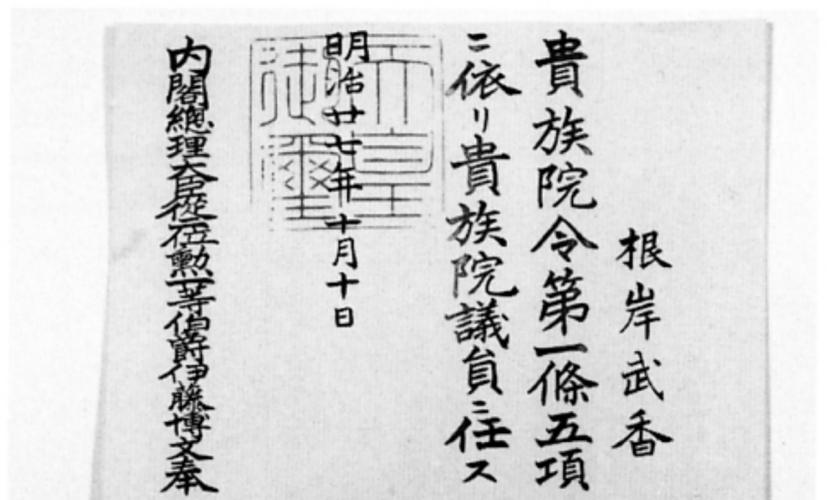
第七大区学区取締申付状 明治10年（1877）

根岸喜夫家蔵



青山学校寄付二付賞状 明治8年（1875）

根岸喜夫家蔵



貴族院多額納税者議員任命状 明治27年（1894）

根岸喜夫家蔵

V 武香と考古学

V-1 考古家武香

日本の考古学研究の先駆けとして、明治10年9月から10月にかけて東京帝国大学のE. S. モース教授は東京都品川区の大森貝塚の発掘調査を行った。この時、武香38歳、すでに好古家として研究心旺盛な武香は、米国人学者による発掘調査に触発され、その年の11月、大里村玉作の素封家須藤開邦等4人で黒岩横穴墓群の発掘を行いました。そ

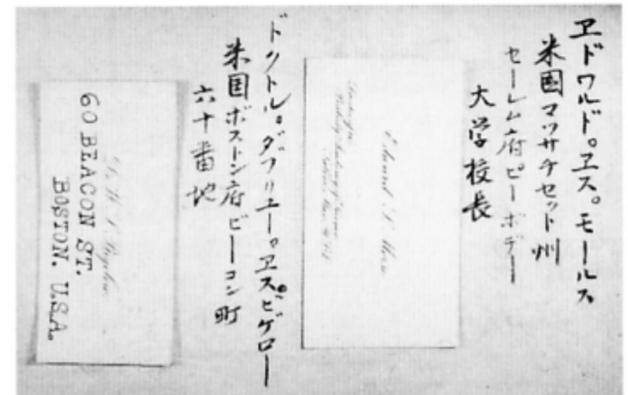
の成果は翌年4月に好古家柏木貨一郎により東京日々新聞へ発表するとヘンリー・シーボルト公使やモース教授をはじめ多くの好古家や文人、学生が黒岩横穴墓群を訪れました。

明治19年、武香は創設まもない東京人類学会に入会すると、古物趣味的な好古家から研究としての考古家への道を歩み出します。そして当時気鋭の考古学者坪井正五郎と出会い、二人はのちに吉見百穴の発掘調査を手掛けることになります。



E.S.モース直筆画 明治15年(1882)

根岸喜夫家蔵



人名録(E.S.モース、W.S.ビゲロー名刺)

根岸喜夫家蔵・県寄託



武人埴輪(元根岸家蔵) 東京国立博物館蔵



武人埴輪(頭部) 根岸喜夫家蔵

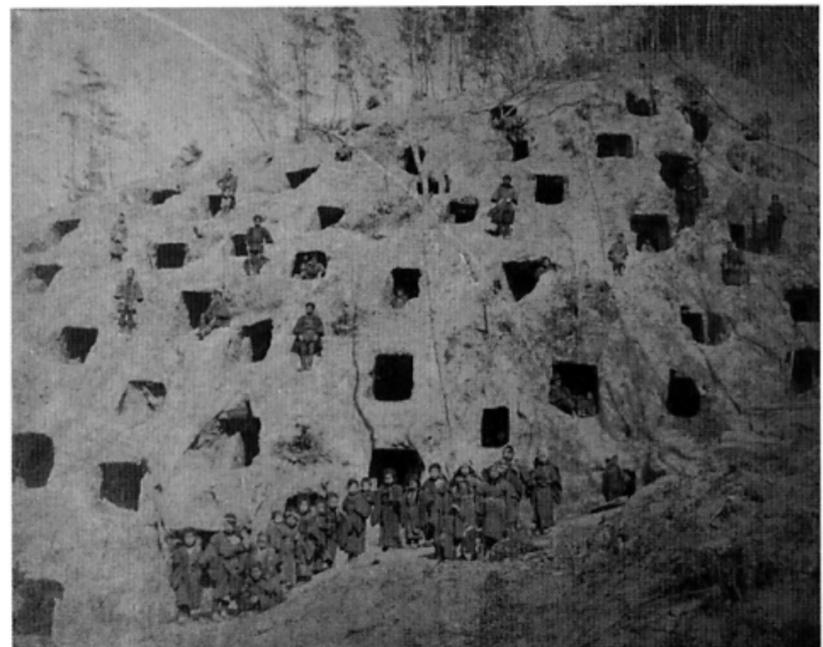


根岸武香日誌 明治17~20年(1884~87)

林 信行家蔵・県寄託

V-2 吉見百穴の保存

明治20年8月、東京帝国大学大学院生の坪井正五郎は卒業論文の作成のため根岸宅を訪れ、武香とともに吉見百穴を数日間の予定で調査を行いました。その結果、横穴の数は予想をはるかに超える規模であることが判明したため坪井は急ぎ大学に戻り全面発掘のための援助を求めました。後日帝国大学総長渡辺洪基は坪井の案内で現地を訪れたのち、大学の援助を受ける事ができました。



吉見百穴発掘風景 明治20年冬

根岸喜夫家蔵

根岸友山・武香関連年表

年号	西暦	根岸友山・武香の出来事・日本の主な出来事	年号	西暦	根岸友山・武香の出来事・日本の主な出来事
寛政12年	1800	友山の祖父、宜信没す 横手堤修築	明治3年	1870	武香、弾正台巡察属となる
文化6年	1809	根岸友山生まれる。幼名房吉	明治4年	1871	武香、浦和県第十四区戸長となる 廃藩置県により埼玉県、入間県設置
文政7年	1824	荒川洪水、大里郡の大囲堤が決壊、大きな被害を出す	明治5年	1872	武香、入間県第七大区五小区戸長となる。 武香、入間県に出仕、租税課専勤地券事務取扱。学制頒布
文政13年	1830	友山、幕府代官へ大囲堤の修復願いを訴える	明治6年	1873	武香、熊谷県南七大区五小区副区長となる 武香、熊谷県学区取締となる 徴兵令布告、熊谷県設置、地租改正条例公布
天保3年	1832	友山の父、信保没す	明治9年	1876	武香、埼玉県に出仕する（～同12） 新埼玉県誕生（現在の埼玉県）
天保4年	1833	幕府が大囲堤を修復する	明治10年	1877	武香、素封家須藤開邦等4人で黒岩横穴墓群を発掘
天保9年	1838	甲山村ほか23ヵ村の組合内部で、大囲堤の修復と費用負担をめくり対立	明治12年	1879	武香、埼玉県会議員となり、県会副議長選出される E. S. モース教授、根岸宅訪れ、横穴墓群視察
天保10年	1839	糞負騒動起こる。甲山村ほか9ヵ村の数百人が、大囲堤の修復をめくり川越藩へ強訴	明治13年	1880	武香、県会議長となる 武香、埼玉県庁所蔵の『新編武蔵風土記稿』を謄写させる
天保10年	1839	根岸武香生まれる。幼名新吉	明治15年	1882	E. S. モース教授、根岸宅を訪れる
天保11年	1840	糞負騒動につき幕府が処罰。友山「江戸十里四方追放」	明治16年	1883	高崎線開通（上野・熊谷間）
天保12年	1841	旗本筒井氏が甲山村に所領を持つ。友山、名主を勤める 天保の改革	明治17年	1884	『新編武蔵風土記稿』が内務省地理局から出版される 秩父事件
嘉永6年	1853	ペリー来航	明治19年	1886	武香、東京人類学会に入会
安政2年	1855	安政大地震	明治20年	1887	武香、坪井正五郎と吉見百穴を発掘する 武香、大里幡羅榛沢男衾郡所得税調査委員
安政3年	1856	アメリカ総領事ハリス着任	明治22年	1889	武香、吉見村会議員となる 大日本帝国憲法発布、市制町村制公布
安政5年	1858	大里郡の村々と熊谷宿の間で、荒川百間出し堤による洪水の被害をめぐる訴訟が起きる 安政の大獄（～1859）	明治23年	1890	根岸友山没す。享年82歳 武香、古代古文書の復刻出版を内務省から許可 武香、再度県会議長となる 帝国議会開設
安政6年	1859	根岸友山、村民の陳情により、「江戸十里四方追放」赦免	明治27年	1894	武香、貴族院多額納税者議員となる 日清戦争
万延元年	1860	友山、長州藩から「御国塩其外産物之御用取扱」を命じられる 長州藩主毛利敬親、友山と弟の仁輔を江戸藩邸に招く 桜田門外の変	明治28年	1895	下関条約
文久2年	1862	荒川百間出し堤の訴訟が決着する 坂下門外の変、寺田屋事件、生麦事件起こる	明治33年	1900	武香、所蔵の古文書を東京帝国大学史料編纂所へ貸し出す
文久3年	1863	友山、清河八郎らの呼びかけに応じて浪士組に参加、一番組小頭として上洛し、尊皇攘夷の建白書を学習院に提出する 友山は、一時近藤勇らと行動を共にするも、同年中に東下、新徴組に参加 薩摩、イギリスと開戦	明治35年	1902	武香、埼玉県と東京府へ『新編武蔵風土記稿』刊本の訂正を願い出る 根岸武香没す。享年64歳 日英同盟
元治元年	1864	池田屋事件起こる	明治37年	1904	日露戦争（～1905）
慶応2年	1866	武州一揆、薩長同盟、長州征伐			
慶応3年	1867	大政奉還、王政復古			
明治元年	1868	寺門静軒没す。享年73歳 武香、大惣代名主となる 鳥羽伏見の戦い（戊辰戦争）、明治に改元			
明治2年	1869	友山・武香父子、名字帯刀を許される 版籍奉還により大宮県設置（のち、浦和県に改称）			

展示協力者・協力機関者（敬称略）

根岸喜夫 根岸友憲 根岸貞子 林 信行 有山 董 小室開弘 埼玉県立文書館 埼玉県立博物館
東京国立博物館 国立国会図書館 日野市ふるさと博物館 大田区立郷土博物館 大里村歴史研究会

特別展

根岸友山・武香の軌跡

発行 2002年2月
編集・発行 大里村教育委員会
〒360-0195 埼玉県大里郡大里村大字中曾根654-1
TEL 0493-39-4808
印刷 巧和工芸印刷株式会社

1918